

コード	名称	区分	コード	名称
事業名	1091 一般管理経費	会計	03	国民健康保険事業特別会計
		款	01	総務費
		項	01	施設管理費
基本 施策	01 10万市民の健康を維持する	目	01	一般管理経費
		細目	465	一般管理経費
行革大綱の重点事項番号		細々目	01	一般管理経費
担当部課	コード 703100 名称 山田診療所	担当者 氏名	永井 喜美子	連絡先 47 - 0305 (内線)

事務事業の概要(Plan)

対象(誰を、何を)	利用者(患者)	※対象件数
成果(どうする)	交通の不便な遠方の医療機関にかからなくても、近くで住み慣れた地域で医療を受けられる。 通院ができない場合は、往診による治療を受けることができる。	
根拠法令・要綱等	伊賀市国民健康保険診療所条例	
開始年度	平成 年度	関連事業
終了年度	平成 年度	
H21 事業 内容	<ul style="list-style-type: none"> 診療業務(内科・整形外科) 医療事務(受付・計算・診療報酬請求・証明書発行等) 院内処方(調剤・服薬説明等) 庶務(文書管理・会計事務・職員管理・委託契約等) 施設管理 	
社会情勢 の変化等	平成5年に開設。開設時の医師は平成13年12月に近隣に開業(内科・外科)。平成14年から整形外科専門医の金沢医師が内科・整形外科を標榜し診療している。	

整備内容(「施設の建設」「整備事業」のみ記入)

1 建設用地	
2 建設面積 (延床面積)	
3 規模・構造	
4 総事業費	千円

運営体制(「施設の建設」「施設の管理・運営」のみ記入)

1 運営主体	
委託先	
2 配置人員	3人
3 年間運営費	8,899 千円
4 市内の 類似施設	伊賀市国民健康保険阿波診療所・霧生診療所

事務事業実施にかかる業績とコスト(Do)

活動 指標	指標名	単位	実績値		目標値	
			H20	H21	H22	H23
受診者数(延べ)		人	目標	10000	目標	10000
			実績	9181	実績	8393
診療日数		回	目標	243	目標	243
			実績	240	実績	240

成果 指標	指標名	指標設定の考え方	単位	実績値		目標値	
				H20	H21	H22	H23
1日当たりの診療所の平均受診者数		受診者数/診療日数	人	目標	41	目標	41
				実績	38	実績	35
				目標		目標	
				実績		実績	

投入 コスト	H20 決算		H21 決算		H22 当初予算		H23 当初要求	
	(千円)	(千円)	(千円)	(千円)	(千円)	(千円)	(千円)	
直接事業費計(A)	11,109	9,256			8,899		8,900	
Aの 財源 内訳	国庫支出金							
	県支出金							
	地方債							
	その他	0	0					
一般財源	11,109	9,256			8,899		8,900	
事業投入人件費(B)	2.0人 14,400	2.0人 14,400	2.0人 14,400	2.0人 14,400	2.0人 14,400	2.0人 14,400	2.0人 14,400	
フルコスト(A)+(B)	25,509	23,656			23,299		23,300	

事務事業の評価(Check)

判断の基準(該当項目に○をつけてください)		備考欄(特記事項)
必要性	法律(条例は除く)で実施が義務付けられている事業 個人の方だけでは対処し得ない社会的・経済的弱者を対象に、生活の安定を支援し、あるいは生活の安全網(セーフティネット)を整備する事業 特定の市民や団体を対象としたサービスであるが、サービスの提供を通じて対象者以外の第三者にも利益が及ぶ事業 事業開始からの目標・目的を概ね達成している事業 市民にとっての必要性は高いが、多額の投資が必要、あるいは事業リスクや不確実性が存在するため、民間だけではその全てを負担しきれず、これを補完する事業 市民が社会生活を営むうえで必要な生活環境水準の確保を目的とした事業 国や県、民間が同様のサービスを提供している事業 市民の生命、財産、権利を擁護し、あるいは市民の不安を解消するために必要な規制、監視、指導、情報提供、相談等を目的とした事業 民間のサービスだけでは市域全体に望ましい質・量のサービスが確保できず、これを補完・先導する事業 受益の範囲が不特定多数の市民に及び、サービス対価の徴収ができない事業 事業の対象や環境の変化により、事業ニーズが薄れていない事業 【○をつけた場合、ニーズの具体的内容、根拠となるデータ等判断理由】	○
	財政状況を考慮し、事業を休廃止した場合、市民生活への影響が大きい事業 【○をつけた場合、影響の内容及び判断理由】	
有効性	事務事業の継続、達成度や実績を高めることで成果指標の向上が期待できる。 基本施策の目的を実現するために現在の事務事業の内容は適切であり、基本施策に対して貢献度も高 サービス水準や対象を見直す余地がある。	○
達成度	当初設定した計画を 80%以上100%未満 実施している。 予算の繰越の有無 無 【予算の繰越がある場合、繰越の種別】 午後の診療を充実させる。	【計画に遅れが生じている場合、改善策】
効率性	他の事業主体の活用、事業移管が可能である。 基本施策の中で類似・重複する事務事業がある。 【事業名】 受益者負担を求めることができる事業である。 全体コストにおける負担構成は適正である。 コストに見合った効果となっていない。効果を絞り込むことでコストを削減する余地がある。	

昨年度の評価結果に基づく改善策への取り組み状況

改善策	地域住民の高齢化が進み、ますます診療所に寄せる期待が大きい。今後も地域では診療所の存続を望む要望が強いことから医師確保が課題となる。
昨年度の 取組状況	【状況】 計画のとおり進んでいない 【詳細】 午後の部は往診のみ行っていたが、21年度からは予約診療を取り入れて、受診者の利便を図った。

今後の方向性(Action)

担当課長氏名	中村 崇
事業の方向性	【方向性】 現状維持 【理由】 市民が安心して医療サービスを受けられる医療機関であるので事業の継続は必要である。
現時点における 課題、その他	受診者が減少してきた。
課題、その他に 対する改善策 (いつまでに、何を、どうする)	平成22年度から医師と相談して午後の予約診療の人数を増やしていく。